

身近な地質スポット

愛知県尾張旭市／「吉賀池湿地」

今回は、尾張旭市の吉賀池湿地の紹介です。

名古屋市の東部に位置する尾張旭市、その地形は大きく北部の丘陵地、南部の低地に区分されます。

丘陵地は、起伏の少ないなだらかな斜面を形成しており、その地形を利用して灌漑用のため池が数多く設けられています。地質は、新第三紀鮮新世に形成された東海層群中の矢田川累層よりなり、おもに固結した粘性土、締まった砂質土で構成されています。

低地は、東から西へ流れる矢田川沿いに分布し、その平坦面を利用し、瀬戸と名古屋を結ぶ名鉄瀬戸線や、瀬戸街道が市街地を横断しています。

吉賀池湿地は、尾張旭市北部にある大きなため池「濁池」に流れこむ沢沿いに分布する湿地で、水源は森林公園の雑木帯の丘陵地です。

湿地では、水の流れが非常に緩やかであるため、ごく細かな土粒子が沈殿しやすく、加えて枯れた植物が幾重にも積み重なり、腐植土を形成します。開発行為ではたびたび悩みの種となりますが、肥沃な土壌は豊かな自然環境をもたらす貴重な資源です。

地形や地質に関する文献でよく目にする文字に「後背湿地」がありますが、自然のままの状態を保った後背湿地を現実に目にするにはほぼありません。平野に広がり、肥沃で利水便のよい後背湿地は古くより水田に利用されてきたためです。

吉賀池湿地は、後背湿地とは形成過程が異なりますが、周囲に丘陵地がひろがる閉鎖空間にひっそりと佇む小さな湿地で、四季折々の貴重な植物が観察できます。

春のハルリンドウ、夏のサギソウ、秋のシラタマホシクサなど。湿地は木製の観察路、外周フェンスで管理され、年に数回一般公開されています。

(尾張旭市HP／<http://www.city.owariasahi.lg.jp/kurasi/sangyou/kankou/meisho/yosigaike.html>)

大昔、広大な平野に広がっていただろう景観を思い浮かべれば、文献に書かれた難しい単語も素直に受け入れられるのではないのでしょうか。



図-1 後背湿地-自然堤防の背後にできる湿地帯

(出典：国土地理院HP／http://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/kawa_1-4-5.html)



写真-1 吉賀池湿地 (2018. 4. 4 撮影)

